

表1 大阪市立大学医学部附属病院の概要と褥瘡に関するデータ

特徴	特定機能病院 がん診療連携拠点病院 救命救急センター
	病床数：939床、診療科：36、平均在院日数：13.8日
	入院患者の基礎疾患：1位 肺がん、2位 肝臓がん、3位 子宮がん（平成28年度）
	患者平均年齢：56歳（平成28年度）
	職員数：1966人（医師：685人、看護職員：990人、その他：291人）
	新人看護師1～2年目の割合：1年目は毎年80人前後入職、全体の25～30%を占める
褥瘡治療	褥瘡委員会：皮膚科医師、褥瘡管理者、看護部、薬剤師、栄養士、リハビリ、検査、臨床工学部、事務
	皮膚・排泄ケア認定看護師：3人（褥瘡管理者：1、ストーマケア・フットケア外来：各1）
	褥瘡治療で入院の患者：形成外科で皮弁術などの手術目的で、褥瘡専門外来はない
	採用創傷被覆材：ハイドロコロイド、アルギネート、ハイドロジェル、ポリウレタンフォーム、ハイドロファイバー®など
環境	採用外用薬：アズノール®、カデックス®、イソジン®シュガー、ゲーベン®クリーム、プロスタンディン®、アクトシン®、フィブラスト®スプレーなど
	陰圧閉鎖療法：あり
	マットレス：全床に厚み10cmの静止型ウレタンマットレス
	高機能圧切替型エアーマットレス：140台（利用率85%、不足気味）
褥瘡患者	入院患者全体の日常生活自立度Cの割合：20%前後（術後の安静も含める）
	褥瘡に対する診療計画書：月800枚、褥瘡ハイリスク患者月220件
	平成28年度褥瘡有症率：1.11%
	平成28年度院内褥瘡発生率：0.6%（内訳：術中18%、MDRPU42%、一般40%）
	ある1週間の褥瘡患者人数：10人 ●ステージⅠ：1人、Ⅱ：6人（院外発生1人）、Ⅲ：3人（院外発生2人） ●転帰：治癒、転院5人、在宅退院2人（かかりつけ医、訪問看護で対応）

（2017年11月現在）

の基盤づくりのための基礎研修と、27病棟の褥瘡専任看護師が各部署で中心的役割を發揮できるよう研修をおこなっています（表2）。

ラダー研修：1年目研修

研修目標は、①当院の褥瘡対策手順について理解できる、②DESIGN-R®について理解できる、③褥瘡発生時のステージ別対処方法を理解できる、④褥瘡予防ケアを理解・実践できることです。内容は電子カルテの褥瘡管理システムを用いて、褥瘡リスクアセスメント対策の手順、DESIGN-R®評価の講義をおこないます（図1）。褥瘡予防ケア

表2 院内研修

内容	対象
ラダー研修2回	1～3年目が全員受講
全体研修6回	褥瘡専任看護師、スタッフ全員
褥瘡回診研修3回	褥瘡専任看護師

の実技として、体圧測定器の使用も含めたベッドの頭側挙上と解除の方法、背抜き、踵のずれ、臀部の圧解除（除圧グローブの使用）、ポジショニングクッションを用いた下肢ポジショニングをおこないます（図2）。実技は方法を学ぶだけでなく、患者体験をすることによりケアされる患者の立場

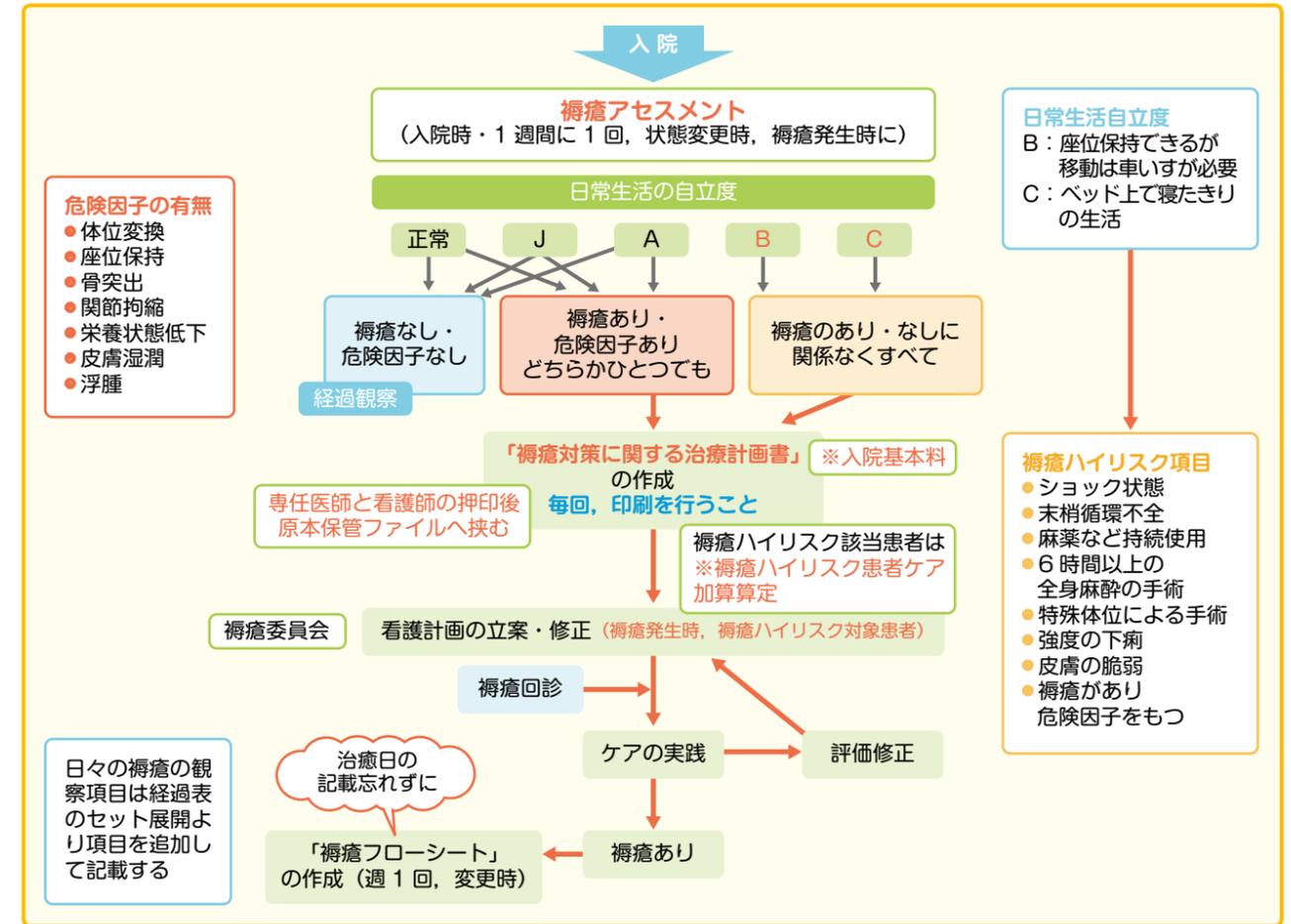


図1 褥瘡対策の手順

を考える機会になります。3か月後、理解度確認のミニテストをおこなって評価し、解答・解説を配布して復習しています。

ラダー研修：2～3年目研修

研修目標は、褥瘡発生患者の褥瘡ケアを正確に展開できることです。内容としては、ブレードスケール、褥瘡ハイリスク対象も含めた褥瘡リスクアセスメント、DESIGN-R®評価、褥瘡治療、除圧、スキンケア、栄養評価などの具体的な看護ケアを事例を通して検討し、研修受講者が発表します。また褥瘡予防ケアの実技として、安楽な体位変換とポジショニングをおこないます。1年目研



図2 実技研修の様子

修と同様に3か月後、理解度確認のミニテストをおこなって評価し、解答・解説を配布して復習しています。